

農協だより

2020. 7月
No.589

たいき

農業功労賞
堀川要一さん
3ページ



青年部
小学校食育事業
4ページ～



農業塾
海外農業視察研修
6ページ～



273名(委任・書面含む)出席し全8議案可決承認!

農業功労賞 受賞者

安全安心な食糧生産に努力をすることを念頭に取り組んでいきます」と開会挨拶。

議長に金曾浩文さん(開進農事組合)を選出し議事に入

第72回通常総会開催



あいさつする
坂井組合長

5月29日、JA大会議室において、第72回通常総会が開催された。

総会は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、来賓者の出席依頼を控え、少人数による開催となり、正組合員285名の内、本人出席14名、委任出席1名、書面議決を合わせて273名の出席となつた。

総会に先立ち行われる農業功労者の授賞式は、新型コロナウイルスの影響により常勤が巡回し、感謝状と記念品を贈呈した。各種共励会については総会後、受賞者を巡回し、表彰状と記念品を贈呈した。

本総会にあたり、坂井組合は、JA大会議室において、第72回通常総会が開催された。

長は「昨年度は酪農・畜産・畑作ともに良好な一年となりました。酪農においては良質な粗飼料生産に基づき、前年対比103.6%となる11万1,854tの実績となりました。個体販売においても全般的に好調な成績となり、和牛においても一定の成果を挙げることができました。畑作物においては野菜部門で市況が飽和状態となり苦戦したのもありました。作物の生育としては順調に進み、小麦においては過去最高の10・7俵を記録することができました。

J A事業では信用部門において、農業経営拡大化資金の利子助成を指導部門と連携して実施。購買部門においては、GAPの取り組みの中で生産現場の環境保全、焼却炉の推進をしました。後継者対策では、農業塾の総括として新たに発見、更なる見聞を広げる

ことによる農業基礎力向上を目的に、海外視察研修を実施しました。管理部門では大規模地震等を想定した緊急時のマニュアル整備、本館事務所に自家発電機を設置しました。

このように中、本年度の農協取扱高は147億9,400万円となり6年連続の増加、過去最高を記録しました。これは組合員皆様の日々のご努力、関係機関の厚いご支援の賜物と心から感謝申し上げます。令和2年度は新型コロナウイルスといつた見えない恐怖との戦いから始まり、長引く影響から生乳処理や和牛枝肉の価格に影響を受け、大事な局面を迎えております。このような中、「生産者がやること」「関係機関がやること」といった役割を果たしながら、需給調整や消費拡大の取り組みを強力に進めて参りたい。

議案では、事業報告、貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案、事業計画など8議案が審議され、全て原案通り可決された。



総会のようす



議長の金曾浩文さん



下大樹 半田 司さん



上大樹 坂本 松太郎さん



開進 藤原 幸一さん



萌和 遠藤 豊隆さん



拓進 鈴木 喜雄さん



尾田 村瀬 博志さん

各種共励会受賞者

酪農経営改善共励会		乳質改善共励会		畑作物多収穫共励会	
◆個人の部		◆個人の部		◆個人の部	
最優秀賞 芽 武	開進 振別 前田 昌文	最優秀賞 中島 小林 孝行	最優秀賞 上大樹 (農)マジカナファーム	最優秀賞 中島 幸康	最優秀賞 白石 和彦
最優秀賞 日方 (農)日昭牧場	阿部 克己	最優秀賞 日方 (株)日方酪農部会	最優秀賞 (有)太田牧場	最優秀賞 (株)湯澤牧場	最優秀賞 和木 邦也
最優秀賞 北守牧場	尾田 (有)金丸牧場	最優秀賞 村崎 隆一	最優秀賞 拓進 鈴木 和昭	最優秀賞 遠藤 慎也	最優秀賞 和木 邦也
◆肥育販売部門	豊里 牧田日出男	◆繁殖素牛部門	◆豆類	◆馬鈴しょ	◆てん菜
最優秀賞 大光 姉崎 久信	大光 姉崎 久信	最優秀賞 萌和 阿部 克己	(1) 大豆 該当者なし	最優秀賞 拓進 鈴木 和昭	最優秀賞 白石 和彦
◆園芸作物	該当者なし	◆加工スイートコーン	(2) 小豆 該当者なし	◆秋播小麦	◆てん菜
◆加工スイートコーン	該当者なし	◆豆類	(3) 大豆 該当者なし	【濱原の部・生食の部】 該当者なし	◆てん菜

各種家畜共進会受賞奨励賞

名 称	部 门	受 賞 名	名 号・生年月日	出 品 者
第50回十勝 B & W ショウ	1部	1等首席	ゴールデン カーリー ドアマン E T H30. 9.15	(有)金丸牧場
	5部	1等首席	ローヤルランド ブレディ ゼラ H29.10.11	木村 達也
2019北海道 B & W ショウ	1部	1等首席	ゴールデン カーリー ドアマン E T H30. 9.15	(有)金丸牧場
第50回十勝総合畜産共進会	15部	1等首席 リザーブシニア チャンピオン	エンブレムK スパークリング シエリー H26.12.31	株エンブレム-K
第17回北海道総合畜産共進会	14部	1等首席 シニアチャンピオン グランチャンピオン	エンブレムK スパークリング シエリー H26.12.31	株エンブレム-K
2019北海道ホルスタインウインターフェア	11部	1等首席 ベストアーダー	エンブレムK ドアマン ジヨアンナ E T H28. 8. 9	株エンブレム-K

青年部

7 作物を作付

— 10年目となる食育事業が始動 —

5月13日、大樹小学校農園場において、小学校3年生の児童44人を対象に食育事業を行った。

この事業は今年で10年目を迎える、種まきから成長過程の観察、収穫体験を通じて「食」と「農」の大切さや農業の魅力を理解し、農業に興味を持つもらうために年4回ほど行っている。

今年度は新型コロナウイルスの影響により小学校が臨時休校となっているため、秋の収穫に向け青年部8名と小学校の教員5名により、畑作りと播種作業を行った。

部員と教員は、キヤベツ、ポップコーン用とうもろこし、じゃがいも（トヨシロ、キタアカリ、インカのめざめ、シヤドークイーン）、紫ブロッコリー、紫カリフラワー、白ナス、ミニトマトを播種した。

半谷部長は、「新型コロナウイルスの影響により、活動が制限されたり計画が立てにくい状況ですが、児童が秋に作物を収穫できるよう活動していきますのでご協力お願いします」と挨拶した。

まいもは後日、部員が植え付ける。高松副部長は播種する際の注意点や品種の違いを説明し、教員は色の違うじゃがいもや普段目にすることのないブロッコリーの種などに 관심を寄せていた。

今後は成長具合を見ながら栽培管理を行い、収穫と調理を行う予定。



ロータリーによる畑作り



家庭用耕運機による畑作り



肥料の散布



マルチ張り作業



マルチの穴あけ



教員による種まき



教員への説明



農業用廃プラスチック回収風景

4月8日、下大樹の農業倉庫前において、農業用廃プラスチック集中回収が行われた。回収は、年4回実施されるが、今回は第1回目の回収。当日は、農業用廃プラスチックが86,370kgの回収実績となつた。

回収処理料金は、農業用廃プラスチック（運賃含・税抜）でkg当たり27円（処理料15円、運賃12円）となる。

廃プラスチック回収

女性部
花壇整備



役員の
みなさん



青年部の十起こし



花植の様子

例年この時期に行われている花壇作り。参加した役員はマリーゴールドなど3種類の花を一株ずつ丁寧に植えた。今年は黄色・オレンジ・ピンク・赤の4色を配置し、農協周辺が明るく彩られた。

J A 青年部（半谷勇人部長）が花植に先立ち5月13日に耕運機などを用いて土起こしを行い、花壇整備に協力した。

J A 女性部（辻本薰部長）では、5月19日に役員6名が参加して農協周辺の花壇作りを行った。



音見交換



目録の贈呈

町立病院の入院患者には4週に渡って788本の生乳を配布する。

坂井組合長は「生乳生産が順調の中、生産調整はしたくない。生産のピークに向け乳業メーカーには協力いただき、最悪の事態は回避している。町内の方々にも協力頂き、普段よりもう1杯飲んでもらえたら」と呼びかけた。

は大樹町役場を訪れ、酒森町長と板谷教育長に日録を贈呈した。

贈呈は新型コロナウイルスの影響により生乳の需給が緩和した事を受け、牛乳消費を喚起するために行われた。

5月26日、JA大樹町と酪農部会（田中伸一会長）は大樹町役場を訪れ、酒森町長と板谷教育長に目録を贈呈した。

牛乳消費拡大運動



装置についての説明

実演では株式会社丸昇八田の社員より微酸性次亜塩素酸水の説明があり、農業・酪農・畜産現場での使用事例が紹介された。牛舎では子牛の呼吸器病予防を目的とした細霧消毒や空間噴霧による飼養環境改善に使用されている。



効果



効果についての説明

素酸水は安心・安全・効果的に使用できる塩素で、除菌・消臭の効果がある。また、人の体内抵抗物質と同じため手荒れなどもおきないとのことだった。

次亜塩素酸水機械実演会

J A 大樹町 農業塾

海外農業視察研修

視察先 2

マルフオナ・ファーム

ニュージーランド北島のオーガニック牧場である、マルフオナ・ファームを視察しました。

当牧場は、1983年にアメリカートラスト（家族経営）の酪農農家として始まりました。今では自社工場を持ち、「オーガニック、ヘルシー、環境に優しい」を経営方針としたニュージーランド国内初のオーガニック牧場です。草地面積は2,200haで3つの牛群にて飼養管理されています。

【#1】 2,200頭（内、搾乳1,000頭）搾乳量500万ℓ／年

【H A I R】 700頭（内、搾乳400頭）搾乳量220万ℓ／年

【W I N D Y】 1,400頭（内、搾乳900頭）搾乳量

400万ℓ／年の群となつており60～70セントですが、視察の2群でオーガニックミルクを生産していました。ニュージーランドの乳価は1ℓ当たり60～70セントですが、視察雨が降らず、牧草の生育不良による乳量低下の為です。

当時は、90セントまであがっていました。半年以上前から

【#1】では、2回搾乳を口一タリーパーラー50ポイントで従業員3人、3時間でこな放牧であることから1頭当たりの乳量は10ℓ程度と少なめですが、頭数を増やす事で乳量を補っています。

自社工場で製造されるオーガニックミルク（商品名：グリーンバレー）のニュージーランド国内における流通量は、95%に上り、ほぼ国内のオーガニックミルクと言えばマルフオナ・ファーム（グリーンバレー）になるとの事です。

施設では1時間当たり5,000ℓの生乳を殺菌処理し、それを販路が確立されていました。製品数は、約50種類あり、



集乳施設の見学



試飲した乳飲料



場内の加工施設



枯れ上がった放牧地

査も受ける必要があります。その分、付加価値によって、普通の牛乳に比べて市場単価が25%程度高く取引されているそうです。

また、ニュージーランドは、1次産業への補助や助成が無い中、協調性や利便性など、変化に柔軟に対応することで発展している国だと感じました。当牧場においてもオーガニックミルクの第一人者としての地位、自家製造・販売までの6次産業化、中国への輸出という大きな販路など、独自性のあるモデル牧場となっていました。日本の酪農で言えました。日本の酪農で言えば環境問題・ロボットの導入・労働力問題や統合を含めた規模拡大など、先を見据えた変化と行動力の必要性を改めて感じさせられると共に、自分の視野を広げる貴重な経験となりました。

担当：戸梶伸一郎
太田 尚宏



施設の見学



牧場の方からの説明



場内にあるロータリーパーラー

JAグループ通信

JA北海道中央会



新型コロナウイルス感染防止のためテレビ会議システムを活用した中で、5月13日に北海道農協酪農畜産対策本部委員会と生乳受託販売委員会の合同会議を開催し、新型コロナウイルス感染拡大に関する対応、及び令和3年度酪農畜産政策・価格対策に向けた対策等について協議しました。

新型コロナウイルスによる牛乳・乳製品の需要低下に対しては、乳業者等と連携を図り生乳処理の最大化を図るとともに、国の緊急対策を活用した消費拡大・需給調整対策を実施することとしました。

また、今後農林水産省に対し酪農畜産分野の懸念事項を踏まえ必要な対策を継続して要請することとしました。

令和3年度に向けた酪農畜産政策・価格対策については、組織討議の内容を踏まえ、7月上旬に開催する道酪畜対で、概算要求に向けた政策提案の内容を決定いたします。なお、新型コロナウイルスによる国内経済への影響が長期化した場合、さらなる牛乳・乳製品の需要低下が懸念されることから、酪農生産基盤を棄損させないよう国の緊急対策も踏まえ、万全な需給安定の仕組みの構築を強く要請することを確認しました。



JA北海道信連



2008年度から全国の子どもたちに向けて食農教育等の取組みを実践する「JAバンク食農教育応援事業」を展開しています。本事業の一環として、子どもたちが食・環境と農業への理解を深めるきっかけとなることを願い、小学5年生を中心とする高学年向けの補助教材「農業とわたしたちのくらし」を作製しています。道内においては、本年度、約5万部の冊子とDVDを全道の小学校へ贈呈いたしました。



ホクレン



ミルクランド北海道（事務局・ホクレン）は、新型コロナウイルスの感染拡大が深刻化した4月下旬から5月にかけて、医療スタッフへの感謝と、子どもたちの健康増進を願う気持ちを込めて、道内医療機関や札幌市内の保育園、幼稚園などに200mlパック換算で計16万本相当の牛乳を無償で提供しました。またホクレンは、厳しい社会状況の中でも、ひたむきに農作業を続ける道内生産者の姿を伝えようと、ホクレンアンバサダーの森崎博之さんを起用したテレビCM=写真=を作成、道内民放各局で放映しました。



J A グループ北海道の連合会・中央会の活動内容を紹介します。各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

JA共済連北海道



JA共済では「家族みんなで健やかに、安全に。『おうち時間を充実させよう！』」をテーマに、JA共済のホームページに様々なお役立ちコンテンツをご用意しております。コンテンツは、○おうちでできる健康増進活動 ○おうちでじっくり、交通安全を学ぼう ○おうちの防犯、コロナ詐欺が増えています ○健康・介護ほっとラインをご紹介しております。

外出自粛中にご自宅で「健康で安心して過ごしていただき」、「子どもたちが楽しく交通ルールを学べる」取組みとしてぜひご活用ください。



JA北海道厚生連



組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るために、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非ご一読ください。

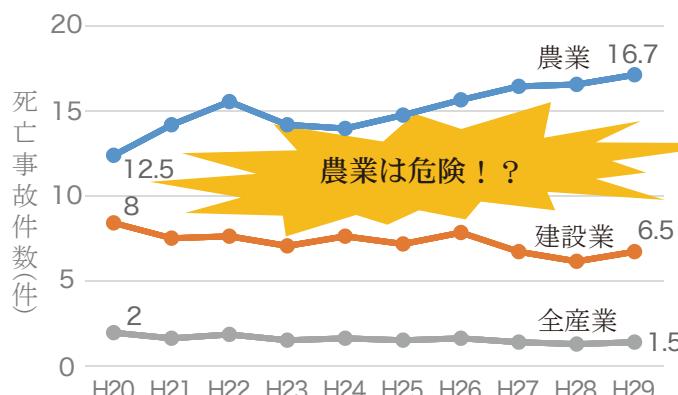


十勝農業改良普及センター 十勝南部支所通信

家畜管理時の農作業事故を防ぎましょう！

1

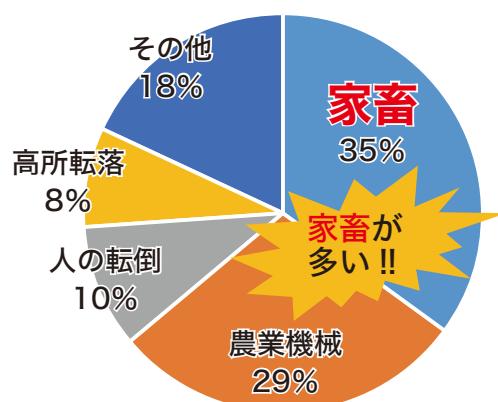
死亡事故件数は建設業の約2.6倍！



10万人あたり死亡事故発生件数の推移（全国）
(農水省、厚労省、総務省実施の調査結果より)

2

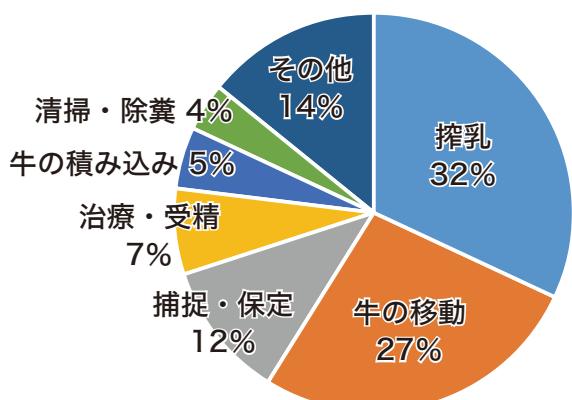
負傷事故原因は「家畜」が多い



原因別負傷事故構成比率（北海道）
(H21～30年度)

3

事故の6割は「搾乳中」「牛の移動中」に発生
家畜に「蹴られる」「踏まれる」「挟まる」にご注意を！



H25～26年度 牛による負傷事故時の作業内容（十勝管内）

●搾乳作業時の事故は、牛に「蹴られる」「踏まれることでの発生が多い。
●牛の移動時の事故は、牛に「挟まる」「踏まれることでの発生が多い。



牛の事故を防ぐために…リスク管理が重要
□牛の行動特性に合った飼養管理
□危険を予測しながら作業
□人や牛の動線を考慮するなど、事故

4

リスク管理の実践方法～農場の現状にそった対策をご検討ください！～

事実をつかむ

- 牛の移動中、牛が急に走り出したが、作業者がロープを離さなかつたため、引っ張られ負傷

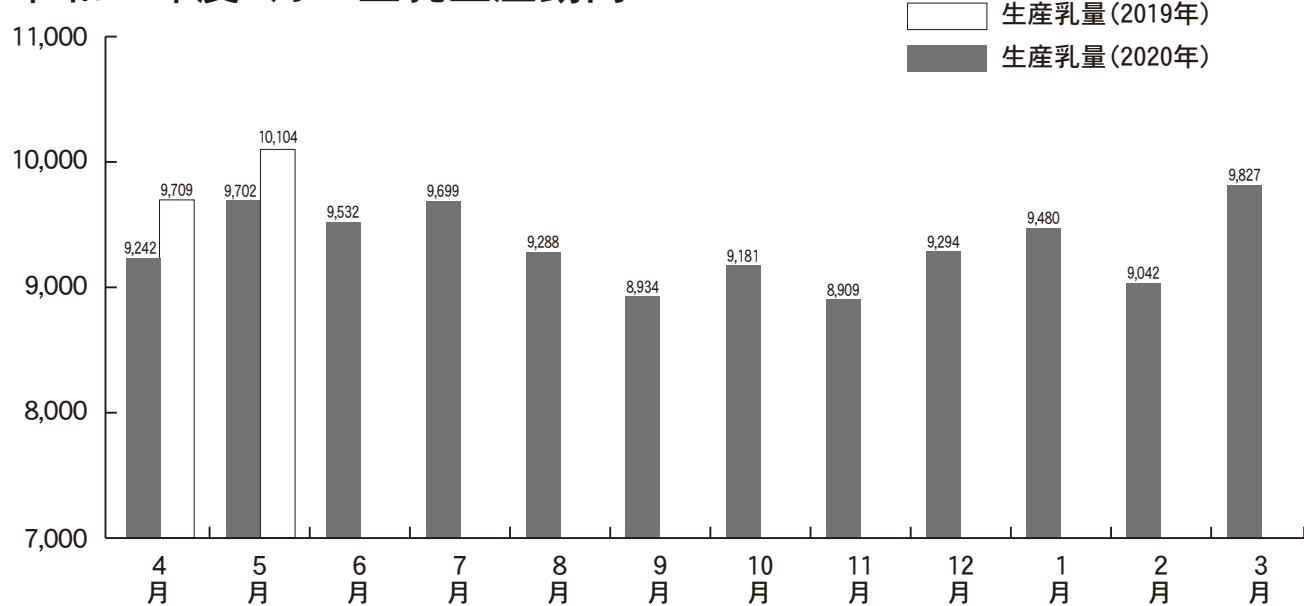
原因追及

- 作業者が「手を離して逃げられると、面倒だ」と思い、ロープを手首に巻き付けていた
- その牛は普段から気が荒かった

対策を立て実行！

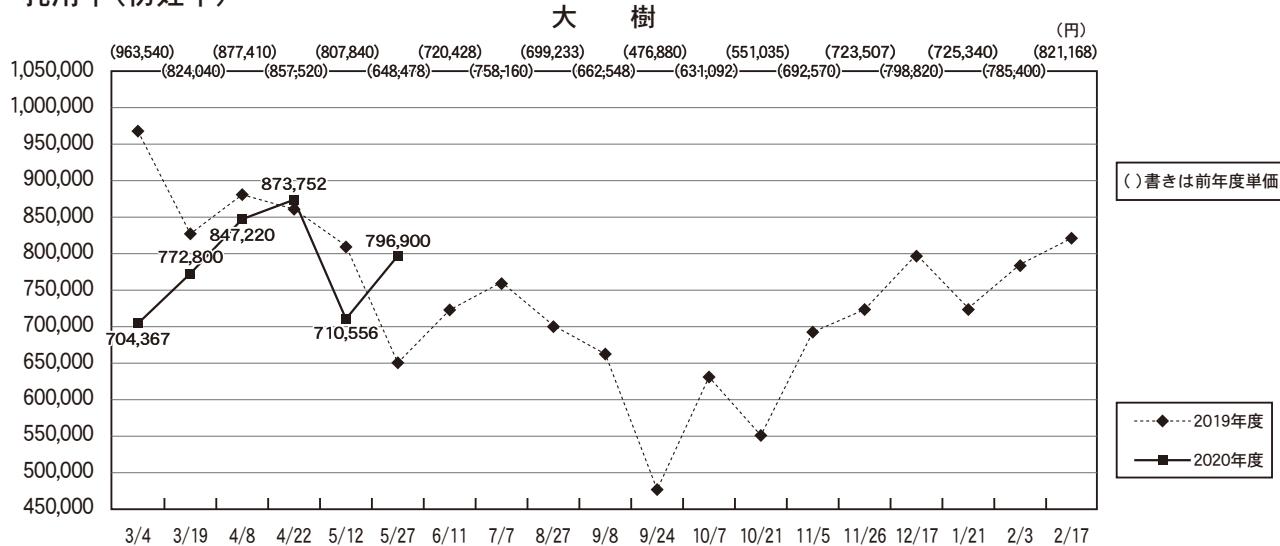
- ロープは手首に巻き付けない
- 危ないと思ったら、ロープを放す
- 気が荒い牛は作業者間で情報共有する

令和2年度5月 生乳生産動向

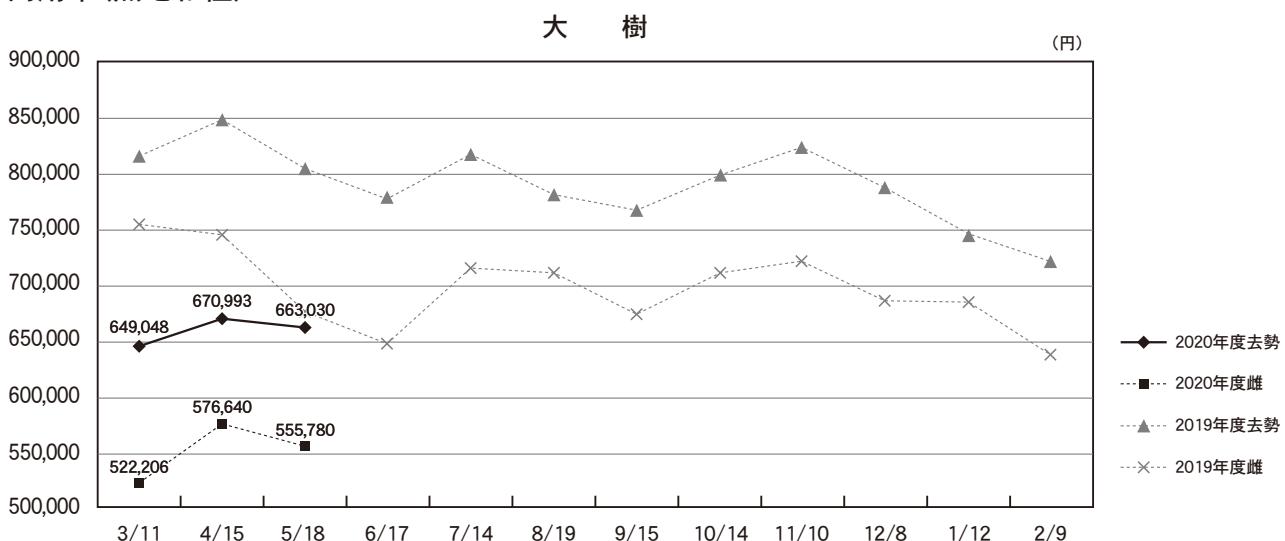


家畜市場の成績

乳用牛(初妊牛)



肉用牛(黒毛和種)



正解者10名に大樹TMOカードが当たる

頭の体操 クロスワードパズル

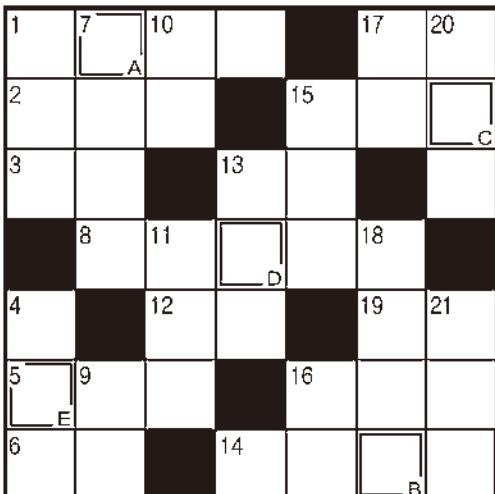
クロスワードパズル

タテのカギ

- ①セーフではなくて
- ④赤い顔をして郵便物をのみ込みます
- ⑦漂白や殺菌に用いる白い粉
- ⑨タコやイカが吐きます
- ⑩銃のこと。モデル――
- ⑪土用の丑（うし）の日によく食べられます
- ⑬冷やし中華に添える黄色い葉味
- ⑮水稻が育つ場所
- ⑯雨や日光を遮るために差します
- ⑰——眼鏡、——巻き

ヨコのカギ

- ⑧アトムの妹の名前になっています
- ⑨夏の夜明けにラッパ形の花を咲かせます
- ⑩この全自動洗濯機のコース運転は、洗い→→脱水と進みます
- ⑪起業して巨万の一を得た
- ⑫「有りの実」と呼ばれることがあります
- ⑭スチールやアルミに分けてリサイクル
- ⑯北海道和種という馬の俗称
- ⑰障子やふすまなどのこと
- ⑱エジプトの首都
- ⑲自動車を数えるときに使う言葉
- ⑳義を見てせざるは——無きなり



- A: 7番横
- B: 6番横
- C: 2番横
- D: 15番横
- E: 5番横
- 1: 10番横
- 2: 11番横
- 3: 13番横
- 4: 12番横
- 5: 9番横
- 6: 14番横
- 7: 8番横
- 8: 16番横
- 9: 17番横
- 10: 18番横
- 11: 19番横
- 12: 20番横
- 13: 15番横
- 14: 16番横
- 15: 17番横
- 16: 18番横
- 17: 19番横
- 18: 20番横
- 19: 21番横
- 20: 10番横
- 21: 11番横

■ 解き方 || 普通のクロスワードの要領で全部を解いて下さい。

次にA→Eの二重ワクの文字を順に並べると、一つの言葉ができます。それが答えです。

締切り || 7月10日（当日消印まで有効）

届出 || 本所企画管理課、生産資材課の専用投書箱へ。

■ とじ込みハガキをお使い下さい。郵送する場合は63円切手をはつて下さい。

■ 賞品 || 大樹TMOカード（正解者多数のときは、抽選で10名の方に）

■ 職員とその家族の方はご遠慮下さい。

■ 6月号の応募者は15名で、全員が正解されました。抽選の結果、

次の方々が当選しました。

当選した方には大樹TMOカードをお届けいたします。

6月号の答え

D ク で し た 。
C ジ で し た 。

A イ
B チ



当選おめでとうございます

当 選 者

(歴舟)	遠	藤	さよ子さん	さん
(東和)	森	田	光	則さん
(上大樹)	高	橋	秋	子さん
(佐々木)	内	隆	弘	さん
(豊里)	牧	田	陽	子さん
(下大樹)	瀬	村	真	美子さん
(上中島)	宮	嶋	寿	美子さん
(振別)	瀬	川	勝	子さん
(尾田)	藤	内	隆	弘さん
(豊里)	瀬	真	美子さん	
(下大樹)	佐	々	木	
(東和)	高	橋	秋	
(上大樹)	宮	嶋	寿	
(佐々木)	内	隆	弘	
(豊里)	牧	田	陽	
(下大樹)	瀬	村	真	
(上中島)	宮	嶋	寿	
(振別)	瀬	川	勝	
(尾田)	藤	内	隆	
(豊里)	瀬	真	美子さん	
(下大樹)	佐	々	木	
(東和)	高	橋	秋	
(上大樹)	宮	嶋	寿	
(佐々木)	内	隆	弘	
(豊里)	牧	田	陽	
(下大樹)	瀬	村	真	
(上中島)	宮	嶋	寿	
(振別)	瀬	川	勝	
(尾田)	藤	内	隆	
(豊里)	瀬	真	美子さん	
(下大樹)	佐	々	木	
(東和)	高	橋	秋	
(上大樹)	宮	嶋	寿	
(佐々木)	内	隆	弘	
(豊里)	牧	田	陽	
(下大樹)	瀬	村	真	
(上中島)	宮	嶋	寿	
(振別)	瀬	川	勝	
(尾田)	藤	内	隆	
(豊里)	瀬	真	美子さん	
(下大樹)	佐	々	木	
(東和)	高	橋	秋	
(上大樹)	宮	嶋	寿	
(佐々木)	内	隆	弘	
(豊里)	牧	田	陽	
(下大樹)	瀬	村	真	
(上中島)	宮	嶋	寿	
(振別)	瀬	川	勝	
(尾田)	藤	内	隆	
(豊里)	瀬	真	美子さん	
(下大樹)	佐	々	木	
(東和)	高	橋	秋	
(上大樹)	宮	嶋	寿	
(佐々木)	内	隆	弘	
(豊里)	牧	田	陽	
(下大樹)	瀬	村	真	
(上中島)	宮	嶋	寿	
(振別)	瀬	川	勝	
(尾田)	藤	内	隆	
(豊里)	瀬	真	美子さん	
(下大樹)	佐	々	木	
(東和)	高	橋	秋	
(上大樹)	宮	嶋	寿	
(佐々木)	内	隆	弘	
(豊里)	牧	田	陽	
(下大樹)	瀬	村	真	
(上中島)	宮	嶋	寿	
(振別)	瀬	川	勝	
(尾田)	藤	内	隆	
(豊里)	瀬	真	美子さん	
(下大樹)	佐	々	木	
(東和)	高	橋	秋	
(上大樹)	宮	嶋	寿	
(佐々木)	内	隆	弘	
(豊里)	牧	田	陽	
(下大樹)	瀬	村	真	
(上中島)	宮	嶋	寿	
(振別)	瀬	川	勝	
(尾田)	藤	内	隆	
(豊里)	瀬	真	美子さん	
(下大樹)	佐	々	木	
(東和)	高	橋	秋	
(上大樹)	宮	嶋	寿	
(佐々木)	内	隆	弘	
(豊里)	牧	田	陽	
(下大樹)	瀬	村	真	
(上中島)	宮	嶋	寿	
(振別)	瀬	川	勝	
(尾田)	藤	内	隆	
(豊里)	瀬	真	美子さん	
(下大樹)	佐	々	木	
(東和)	高	橋	秋	
(上大樹)	宮	嶋	寿	
(佐々木)	内	隆	弘	
(豊里)	牧	田	陽	
(下大樹)	瀬	村	真	
(上中島)	宮	嶋	寿	
(振別)	瀬	川	勝	
(尾田)	藤	内	隆	
(豊里)	瀬	真	美子さん	
(下大樹)	佐	々	木	
(東和)	高	橋	秋	
(上大樹)	宮	嶋	寿	
(佐々木)	内	隆	弘	
(豊里)	牧	田	陽	
(下大樹)	瀬	村	真	
(上中島)	宮	嶋	寿	
(振別)	瀬	川	勝	
(尾田)	藤	内	隆	
(豊里)	瀬	真	美子さん	
(下大樹)	佐	々	木	
(東和)	高	橋	秋	
(上大樹)	宮	嶋	寿	
(佐々木)	内	隆	弘	
(豊里)	牧	田	陽	
(下大樹)	瀬	村	真	
(上中島)	宮	嶋	寿	
(振別)	瀬	川	勝	
(尾田)	藤	内	隆	
(豊里)	瀬	真	美子さん	
(下大樹)	佐	々	木	
(東和)	高	橋	秋	
(上大樹)	宮	嶋	寿	
(佐々木)	内	隆	弘	
(豊里)	牧	田	陽	
(下大樹)	瀬	村	真	
(上中島)	宮	嶋	寿	
(振別)	瀬	川	勝	
(尾田)	藤	内	隆	
(豊里)	瀬	真	美子さん	
(下大樹)	佐	々	木	
(東和)	高	橋	秋	
(上大樹)	宮	嶋	寿	
(佐々木)	内	隆	弘	
(豊里)	牧	田	陽	
(下大樹)	瀬	村	真	
(上中島)	宮	嶋	寿	
(振別)	瀬	川	勝	
(尾田)	藤	内	隆	
(豊里)	瀬	真	美子さん	
(下大樹)	佐	々	木	
(東和)	高	橋	秋	
(上大樹)	宮	嶋	寿	
(佐々木)	内	隆	弘	
(豊里)	牧	田	陽	
(下大樹)	瀬	村	真	
(上中島)	宮	嶋	寿	
(振別)	瀬	川	勝	
(尾田)	藤	内	隆	
(豊里)	瀬	真	美子さん	
(下大樹)	佐	々	木	
(東和)	高	橋	秋	
(上大樹)	宮	嶋	寿	
(佐々木)	内	隆	弘	
(豊里)	牧	田	陽	
(下大樹)	瀬	村	真	
(上中島)	宮	嶋	寿	
(振別)	瀬	川	勝	
(尾田)	藤	内	隆	
(豊里)	瀬	真	美子さん	
(下大樹)	佐	々	木	
(東和)	高	橋	秋	
(上大樹)	宮	嶋	寿	
(佐々木)	内	隆	弘	
(豊里)	牧	田	陽	
(下大樹)	瀬	村	真	
(上中島)	宮	嶋	寿	
(振別)	瀬	川	勝	
(尾田)	藤	内	隆	
(豊里)	瀬	真	美子さん	
(下大樹)	佐	々	木	
(東和)	高	橋	秋	
(上大樹)	宮	嶋	寿	
(佐々木)	内	隆	弘	
(豊里)	牧	田	陽	
(下大樹)	瀬	村	真	
(上中島)	宮	嶋	寿	
(振別)	瀬	川	勝	
(尾田)	藤	内	隆	
(豊里)	瀬	真	美子さん	
(下大樹)	佐	々	木	
(東和)	高	橋	秋	
(上大樹)	宮	嶋	寿	
(佐々木)	内	隆	弘	
(豊里)	牧	田	陽	
(下大樹)	瀬	村	真	
(上中島)	宮	嶋	寿	
(振別)	瀬	川	勝	
(尾田)	藤	内	隆	
(豊里)	瀬	真	美子さん	
(下大樹)	佐	々	木	
(東和)	高	橋	秋	
(上大樹)	宮	嶋	寿	
(佐々木)	内	隆	弘	
(豊里)	牧	田	陽	
(下大樹)	瀬	村	真	
(上中島)	宮	嶋	寿	
(振別)	瀬	川	勝	
(尾田)	藤	内	隆	
(豊里)	瀬	真	美子さん	
(下大樹)	佐	々	木	
(東和)	高	橋	秋	
(上大樹)	宮	嶋	寿	
(佐々木)	内	隆	弘	
(豊里)	牧	田	陽	
(下大樹)	瀬	村	真	
(上中島)	宮	嶋	寿	
(振別)	瀬	川	勝	
(尾田)	藤	内	隆	
(豊里)	瀬	真	美子さん	
(下大樹)	佐	々	木	
(東和)	高	橋	秋	
(上大樹)	宮	嶋	寿	
(佐々木)	内	隆	弘	
(豊里)	牧	田	陽	
(下大樹)	瀬	村	真	
(上中島)	宮	嶋	寿	
(振別)	瀬	川	勝	
(尾田)	藤	内	隆	
(豊里)	瀬	真	美子さん	
(下大樹)	佐	々	木	
(東和)	高	橋	秋	
(上大樹)	宮	嶋	寿	
(佐々木)	内	隆	弘	
(豊里)	牧	田	陽	
(下大樹)	瀬	村	真	
(上中島)	宮	嶋	寿	
(振別)	瀬	川	勝	
(尾田)	藤	内	隆	
(豊里)	瀬	真	美子さん	
(下大樹)	佐	々	木	
(東和)	高	橋	秋	
(上大樹)	宮	嶋	寿	
(佐々木)	内	隆	弘	
(豊里)	牧	田	陽	
(下大樹)	瀬	村	真	
(上中島)	宮	嶋	寿	
(振別)	瀬	川	勝	
(尾田)	藤	内	隆	
(豊里)	瀬	真	美子さん	
(下大樹)	佐	々	木	
(東和)	高	橋	秋	
(上大樹)	宮	嶋	寿	
(佐々木)	内	隆	弘	
(豊里)	牧	田	陽	
(下大樹)	瀬	村	真	
(上中島)	宮	嶋	寿	
(振別)	瀬	川	勝	
(尾田)	藤	内	隆	
(豊里)	瀬	真	美子さん	
(下大樹)	佐	々	木	
(東和)	高	橋	秋	
(上大樹)	宮	嶋	寿	
(佐々木)	内	隆	弘	
(豊里)	牧	田	陽	
(下大樹)	瀬	村	真	
(上中島)	宮	嶋	寿	
(振別)	瀬	川	勝	
(尾田)	藤	内	隆	</

大樹町酪農部会牛乳・乳製品緊急消費拡大運動

リサイクル牛乳パック10枚



ご持参頂くと牛乳券400円分



をプレゼントします。

新型コロナウイルス感染の影響を受け、牛乳・乳製品の需給は急速に悪化しております。酪農家が毎日搾乳する生乳は、日々速やかに処理される必要があり、牛乳・乳製品の消費拡大は、喫緊の課題となっております。

そこで、大樹町酪農部会では牛乳・乳製品緊急消費拡大運動として、いつも牛乳を飲んでくださっている町民の方々により多く飲んで頂きたく、リサイクル用として洗い乾燥して頂いた「1リットル用牛乳紙パック」10枚をお持ち頂くと、400円分の牛乳券と交換いたします。

7月31日（金曜日）までのJA営業日、交換場所は、リサイクル紙パック回収ボックスを設置してある、JA大樹町本所並びに資材店舗で実施します。

未来を拓く協同組合 SDGsとJA

未来を拓く協同組合 SDGsとJA

監修=JCA(日本協同組合連携機構)



住み続けられるまちづくりを

現在、世界人口の半分の約35億人が都市で暮らしこれからも増え続けると予測されています。日本も都市部に人口が集中し、一方で農村部は人口減少や高齢化が進んでいます。国連が掲げるSDGs(エスディージーズ、持続可能な開発目標)では「住み続けられるまちづくり」を目標の一つに掲げています。

地域に住み続けるためには金融機関、食料品店舗、ガソリンスタンドなど社会的なインフラが欠かせません。JAは移動金融店舗車を巡回したり、食料品の移動購買車を巡回するとともに高齢者の見守り活動をしたりしています。また、JAや生協等の協同組合間で連携し、暮らしの困りごとを支援する事例もあります。さらに、都市農業の営みにより都市部の農地が維持され、環境保全や災害発生時の防災機能の発揮等にもつながっています。自治体と包括協定を結ぶ事例も全国的に広がっており、住み続けられるまちづくりを後押ししています。

SDGsに関連する主な取り組み

地域の困りごと解決(盛根)

生協や医療生協、JA、社会福祉協議会が連携し、有償の助け合いシステム「おたがいさま」を実施しています。暮らしの困りごとを住民が協力して解決する取り組みです。困りごとがある「利用者」とそれを助ける「応援者」を「コーディネーター」が結び付けて、解決に導きます。

困りごといろいろ・応援いろいろ

家 事	掃除・洗濯・買い物・食事づくり・ゴミ出し
介 助	散歩・話し相手・外出や通院の付き添い
育 児	子どもの遊び相手・保育園等の送り迎え
その 他	草取り・電球交換・衣類のお直し・お墓の掃除

災害復興支援(岩手)

2017年に発生した岩手県釜石市の大規模林野火災に対し、2018年に岩手県協同組合連携協議会が県内の協同組合に参加を呼びかけ、JAグループや生協、漁協、森林組合が連携して森林再生の植樹を実施しました。



JCA資料等から作成

想そう、大地と地域のみらい。